

I 実践

1 研究主題「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる生徒の育成」

(1) 主題設定の理由

本校では、「自らを高め 力のある人間となれ 一自ら学び 自ら律し 自らを鍛える」を教育目標とし、その目標を具現化するために、「確かな学力の向上」「健康安全・体力づくり」そして、人権教育にもつながる「心と命の教育の推進」の三つの柱が立てられている。また、教育目標達成のための方策として、六つの基本方策が掲げられているが、その方策の中の一つにも「命を大切にし、豊かな心や人権意識を育む教育の推進」とある。この基本方策を受け、命を大切にし、豊かな心を育むための一歩として、まず、自分と他人を大切に思い、認めることができる生徒の育成が必要ではないかと考え、研究主題を設定した。

(2) 研究の内容

ア 全校参加での人権教育の取り組み

イ 道徳の授業を通して人権の意識を高める

2 実践内容

(1) 全校参加での人権教育の取り組み

ア いじめ防止フォーラムの実施

互いを尊重し、思いやりのある行動がとれる態度を育てること、そして、「いじめ」について一人一人が考えることをねらいとし、11月に「いじめ防止フォーラム」を行った。昨年度は、「いじめはなぜ起こるのか、どうすればいじめを防ぐことができるのか」について考えたが、その際に「いじめ防止のための丘中宣言」を採択した。2, 3年生に昨年度、採択した丘中宣言が守られているかどうかを見直すアンケートを実施したところ、91%の生徒が守られていると回答した。そこで、今年度は、「いじめをさせないために何が出来るか」について、話し合い、考えることで、さらに人権意識を高めることができた。当日は、生徒会によるプレゼンテーション、各学年の代表生徒によるパネルディスカッションを行い、昨年度の「いじめ防止のための丘中宣言」にもう一つ宣言を加えることを採択した。



〈いじめ防止フォーラムの様子〉

【丘中宣言】

- 1 いじめは絶対に許さないという雰囲気を作ります。
- 2 いじめを見て見ぬふりをしないという強い意志を持ちます。
- 3 痛みの感じ方は人により目盛りが違うという意志を持ち、自分中心の考え方を改めます。
- 4 人はみんな平等で、一人一人が大切な存在だと感じる心を持ちます。 (H25 付加)

この「いじめ防止フォーラム」を受けて、さらに人権に対する意識を高めていきたいと考え、図書委員会で1月から3月に実施予定である朗読会に、人権に関する作品を取り入れ、人権について考える機会を増やす予定である。



〈朗読会の練習風景〉

イ いじめ撲滅標語

一人一人がいじめについて考える時間を持つことが大切と考え、生徒会がいじめ撲滅のための標語を募集した。各学級で、いじめをなくすためには、どうすればよいか話し合った後、それぞれの考えを標語に表した。その中から、心に響いたものを選出し、「いじめ防止フォーラム」で表彰を行った。

《いじめ撲滅標語大賞作品》

- 心の傷 消しても消えない 傷跡が
- 見直そう いじめじゃないの？ その行為
- 君にあれ いじめを止める その勇氣

(2) 道徳の授業を通して人権の意識を高める

ア 全校道徳

教育目標にも掲げられている「命の大切さ」を考えるために、「スクープ写真」「生きるつとめ」を題材にして、全学年で道徳の授業を行った。どちらの題材も、自分の一時的な感情で、衝動的に行動してしまったことにより、命を落としてしまったり、今までの丈夫な体をもつ自分ではなくなってしまう内容である。しかし、起こってしまった出来事から「命」は、当たり前にあるものではなく、大切なものだと思わせる作品である。その作品にふれることで、自分がかけがえのない存在であることや自他の生命の重さについて考えるよい機会となった。

【生徒の感想】

- ・今日の授業で、命とは一番大事なものだ改めてわかりました。何気ない毎日がキセキなんだと思いました。
- ・一つの自分勝手な行動で、大勢の人々の命がなくなってしまうとすごくこわくなります。人の言うことを素直に聞く「判断力」も大切だと思いました。命は、大切にしなければいけないことを改めて感じました。
- ・「命は簡単になくならない」じゃなくて、「命は簡単になくなるものだ」とわかりました。これから大切にしたいと思います。

イ 学級道徳

a 「いじめ」の原因について

自分の気持ちを、楽しい・嬉しいなどのプラスの気持ちと嫌だな・いらいらするなどのマイナスの気持ちで表してみると、誰もマイナスの気持ちを持っていることに気付く。そのマイナスの気持ちを発散する方法が色々あるが、その中の一つに、人にぶつけてしまうことがあるということを認識することができた。その人にぶつけてしまう行動が、一対一ではなく、一対大勢になった時、いじめにつながってしまうことに気付くことができた。

【生徒の感想】

- ・自分の気持ちを人にぶつけてしまっていることがあるなあと思いました。
- ・いじめが何で起こるのかについて考えることができました。これからそういうところを見たら声をかけられるようにしたいと思いました。
- ・これから人にぶつけないようにしようと思いました。

b 「友人のよさを発見しよう」について

ほとんどの生徒が、自分のよいところ5つを挙げるのが出来なかった。そこから自己肯定感が持てていないことが分かる。そこで、各クラスで、全員のよいところを1～2週間かけて見つけ、それをメッセージとしてまとめ、本人のもとへ届くようにした。



《よさをまとめたメッセージ》

【生徒の感想】

- ・「私は良いところなんてない」と思っていたけれど、「私にも良いところがあるんだ」と思いました。
- ・きちんと見てくれる人は、見てくれていて嬉しかったです。
- ・いらいらした時でも、自分を嫌いにならないでいきたいです。性格をみがいたほうがいいのかと思いました。

3 成果

「いじめ防止フォーラムの実施」や「いじめ撲滅標語の作成」から、一人一人が「いじめ」について向き合い、いじめをさせないために自分たちがどう行動したらよいかを真剣に考え、「人はみんな平等で、一人一人が大切な存在だと感じる心を持ちます。」という新たな宣言を採択することができた。「全校・学級道徳」でも、命の大切さや相手を思いやる大切さを学ぶとともに自分の良さを確認することで、自己肯定感を得ることができた。

II 今後の課題

「いじめ防止フォーラム」や「道徳の授業」を通して、人権に対する意識を高めることができた。今後はその意識を持ち続けながら、自分の生活で実践できるかが課題となってくる。その課題を解決していくためには、生徒一人一人が人権について考え、向き合える機会を継続して取り入れ、それを行動に移せる環境を作ることが大切である。今後も、生徒中心の活動を考えていくとともに、教師間でも人権教育に対する意識を高められるよう研修をし、日々の生活の中で指導を行っていきけるようにしたい。

III 人権コーナーの設置

人権コーナーとして「心と命の教育」を作成した。人権に関するメッセージやいじめ防止フォーラムで採択された「丘中宣言」、「いじめ撲滅標語」などを掲示することで、継続して意識させるようにしている。今後も、生徒の人権意識を啓発するような掲示をしていきたい。



人権コーナーの様子